TOHOKU UNIVERSITY IRIDeS 東北大学災害科学国際研究所

TOMODACHI J&J 災害看護研修の事前研修会を共催しました（2024/7/6）

テーマ：災害医学の基礎知識
会　場：東北大学災害科学国際研究所（仙台市）

2024年７月６日に、米日カウンシル―ジャパンの「TOMODACHI イニシアチブ」の一環として開催された TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム 2024 年と、災害医学研究部門が共催して事前研修会を災害科学国際研究所で開催しました。

災害医学研究部門の江川新一教授（災害医療国際協力学分野）は講師としても登壇し、全国から集まった看護学生 10 名を対象に、「災害医療の基礎知識」と題して、わが国の災害医療体制が 1995 年阪神淡路大震災を契機に整備され、2011 年東日本大震災を経てどのように強化されたか、災害リスクの考え方と、リスクを小さくすること（Disaster Risk Reduction）が防災であること、災害が健康に与える影響が災害ごとに異なっていることに対する考え方などを説明しました。

この災害看護研修プログラムは今年で９年目に入り、被災地、および全国の看護学生が国内での事前研修会、被災地巡見を行ったのちに、約２週間の米国における災害看護研修、さらに数か月をかけた事後研修と最終報告会を通して、災害に対する考え方や保健医療面からの防災におけるリーダーシップを身に付けることを目的としています。

参加者は１日目にエッセーを書き、災害看護に関するモチベーションを再確認し、ワークショップ、ワシントンにある米国小児医療センターの Professional Practice Specialist からの講義を通して、自発的な知識と考え方を身に付けます。２日目には石巻の被災地と石巻赤十字病院において東日本大震災の活動や避難所での生活について講義と体験をします。災害が健康に被害を与えるという当たり前のことが国際的な防災枠組に記載されたのは、2015 年の仙台防災枠組がはじめてです。健康を守ることは保健医療の力だけではできません。次世代を担う看護学生の皆さんが、保健医療とすべてのクラスターが協力して人々のからだとこころの健康（ウェルビーング）を守るためにどうしたらよいかを考えるよい機会となりました。

10 名の受講生、メンター、米国からの講師、ファシリテータと

講義する江川教授

文責：江川新一（災害レジリエンス共創センター、災害医療国際協力学分野）